

資料編

資料1 教育フェスタ配布用のリーフレット(4ページ分)

暮らしの中に眠る音楽があなたの授業に!!

郷愁を誘うなつかしい音たちが子どもの心に響く

授業に使える郷土の音楽

あなたも教材化してみませんか?

郷土の音楽を学びの場へ

教材化プロセス

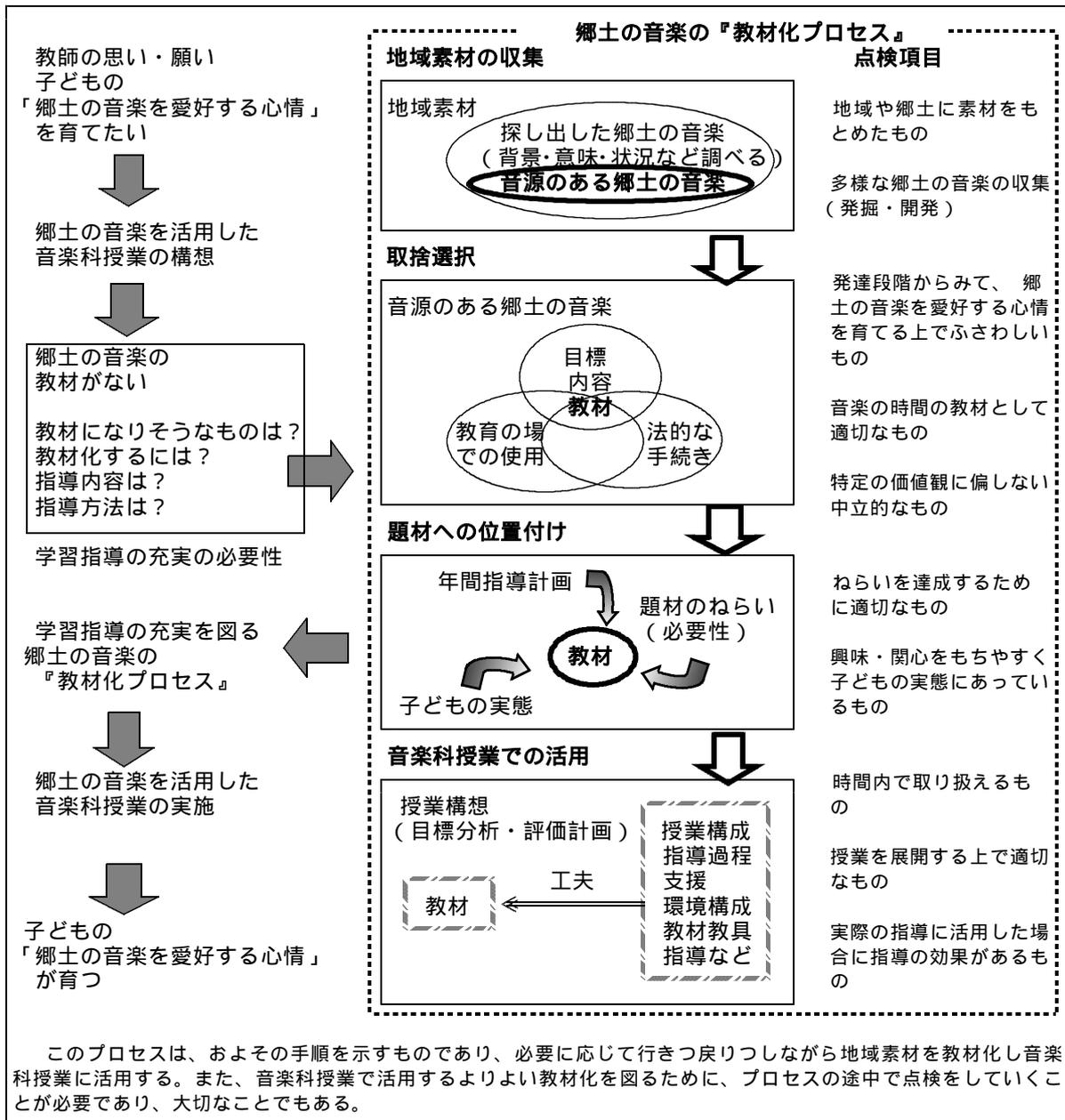
地域素材を教材化し音楽科授業で活用するプロセスや資料の紹介



教材化プロセスを実践する具体的な方法や留意事項、群馬県用資料など

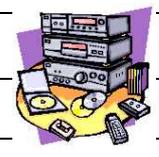
地域素材を教材化し音楽科授業で活用するプロセス及び基本構想図

- 1 地域素材の収集
 - (1) 地域に伝承されている郷土の音楽を収集するために、情報収集する方法を考える。
 - (2) 地域素材の中から、地域に伝承されている郷土の音楽を、(1)で考えた方法でできるだけたくさん探し出し収集する。また、背景や意味や状況などを詳しく調べる。
 - (3) 郷土の音楽の音源（VTR・CD・カセットテープなど）を収集する。
- 2 取捨選択
 - (1) 子どもの発達段階を考慮し、学習指導要領における音楽科の目標や内容に即しているか検討し、郷土の音楽を取捨選択する。
 - (2) 著作権や肖像権など法的な手続きに問題はないか使用可能であるか検討し、取捨選択する。
 - (3) 郷土の音楽が教育活動の場で使用可能であるかを、音源の質・背景や歌詞の内容・身体表現や動き・扱いやすさなどの条件を考慮して取捨選択する。
- 3 題材への位置付け
 - (1) 各学校の教育目標や学校行事や他教科の学習内容などを考慮し、郷土の音楽（教材）を、小・中学校の音楽科年間指導計画の題材の中に位置付ける。
 - (2) 題材のねらいや授業構成上活用する必要があるか検討し、郷土の音楽（教材）を題材へ位置付ける。
 - (3) 題材に対する子どもの実態を考慮し、親しみやすく興味・関心をもちやすいような郷土の音楽（教材）を題材へ位置付ける。
- 4 音楽科授業での活用
 - (1) 「郷土の音楽」を教材として活用した音楽科の授業を構想する際、授業のねらいや目標を分析し、様々な工夫の中から達成していくために、効果的な工夫を検討し、指導計画を作成する。
 - (2) 「郷土の音楽」を教材として活用する音楽科授業を構想する際、授業のねらいや目標に照らし合わせて評価計画を作成し、指導計画や本時の展開（授業計画）の中に評価の観点・評価方法を盛り込む。



郷土の音楽を収集するための参考文献・資料などの例(群馬県の場合)

	書名・資料名・題名など	編集/発行/著者	発行所	発行年	所有者(など)	
書籍・紀要・資料など	日本全国	平成14・15・16年度 研究集録 和楽器活用の音楽教育 第1～3集	NPO邦楽教育振興会	NPO邦楽教育振興会	平成15・16・17年3月	総合教育センター図書館
		和文化	和文化教育研究会	明治図書出版	平成16年10月	県立図書館
		日本の伝統を体感するQA事典	中村哲			
		民俗芸能で広がる子どもの世界	文化庁：芳賀日出男・星野紘	社団法人全日本郷土芸能協会	平成15年3月	(書店販売)
		日本の伝統文化を生かした音楽の指導	峯岸創・大熊信彦ほか	(株)暁教育図書	平成14年6月	総合教育センター図書館
		日本の楽器 全6巻CD付	高橋秀雄	小峰書店	平成12年2月	県立図書館
		日本の音 1・2・3・4・5・6				
	群馬県	音楽からみた日本人	小島美子	日本放送出版会	平成9年7月	県立図書館
		日本音楽がわかる本	千葉優子	音楽之友社	平成17年3月	前橋市立図書館
		日本の民俗芸能調査報告書集成 関東地方の民俗芸能	各県の教育委員会	(有)海路書院	平成16年11月	県立図書館
		群馬県の民俗芸能 - 群馬県民俗芸能緊急調査報告書 -	群馬県教育委員会	群馬県教育委員会	平成9年3月	総合教育センター図書館
		高等学校芸術科 指導資料(音楽関連科目) 「郷土芸能」指導の手引き	群馬県教育委員会	群馬県教育委員会	平成9年5月	総合教育センター図書館
		群馬の祭り・行事 - 群馬県祭り・行事調査報告書 -	群馬県教育委員会	群馬県教育委員会	平成13年3月	総合教育センター図書館
		群馬県の民謡 - 民謡緊急調査報告書 -	群馬県教育委員会 文化財保護課	群馬県教育委員会	平成元年3月	総合教育センター音楽科
		群馬の八木節 - 伝承文化調査報告書 -	(財)群馬県文化事業団	(財)群馬県文化事業団	昭和57年3月	前橋市立図書館
		新世紀ぐんま 郷土史辞典	(財)群馬地域文化振興会	群馬県地域事業振興会	平成15年1月	総合教育センター図書館
		群馬の獅子舞	群馬県獅子舞保存会	群馬県獅子舞保存会	昭和58年	前橋市立図書館
		群馬県文化財地図	群馬県教育委員会	群馬県教育委員会	平成3年3月	総合教育センター図書館
生命の発見 第16回 国民文化祭ぐんま2001 公式記録(CD-ROM付)	文化庁・群馬県ほか	第16回国民文化祭群馬県実行委員会	平成14年3月	総合教育センター図書館		
群馬の郷土芸能(上下)	萩原 進	みやま文庫	平成5年3月	県立図書館		
群馬の祭りと年中行事	都丸十九一	上毛新聞社	平成7年6月	前橋市立図書館		
群馬のわらべ歌	酒井正保	柳原書店	昭和62年10月	総合教育センター図書館		
群馬の伝承わらべうた	酒井正保	群馬県文化事業振興会	平成12年5月	前橋市立図書館		
民俗音楽の底力 - 群馬県、モデルを中心に - 現代群馬の郷土教材探求 社会科学習・総合的学習の基礎として	日本民俗音楽学会 山口幸男	勉誠出版 あさを社	平成13年10月 平成13年3月	県立図書館 県立図書館		
	資料名・題名など	編集・発行など	発行所	発行年	所有者(など)	
音源	群馬県	CD 群馬の祇園囃子	群馬県教育委員会 文化財保護課	群馬県教育委員会	平成7年	総合教育センター音楽室
		VTR 群馬県の民謡 上州の仕事唄(上下)	群馬県教育委員会 編集作成	群馬県教育委員会	平成10年	総合教育センター音楽科
		VTR 群馬の民謡(仕事唄の世界)	群馬県教育委員会 編集作成 代表 井田安雄	群馬県教育委員会		総合教育センター音楽科
		VTR 各市町村郷土芸能大会などの収録	各市町村教育委員会 文化財保護課	各市町村教育委員会 文化財保護課		各市町村教育委員会 文化財保護課
		カセットテープ 群馬の民謡集 第1集	群馬県民謡連盟 解説 都木喜祿	群馬県民謡連盟	平成9年5月	総合教育センター音楽科



郷土の音楽を検索できるWebページの例

	Webページのタイトル	掲載されていたページ(次)	Webページのアドレス(http://www.)
日本全国	平成12年度文部科学省 教育用コンテンツ開発事業	「オンライン音楽室」日本の音楽 郷土の音楽	ongakushitsu.net/
	和文化の風	和文化Webリンク	http://hsdb.soc.hyogo-u.ac.jp/wabunka/
	教育芸術社	「音楽調べ隊：郷土の音楽」	kyogei.co.jp/index.html
	わざをき通信	群馬県獅子舞一覧表	asahi-net.or.jp/~TO7K-WTNB/index.html
群馬県	群馬県教育委員会文化課	群馬の文化財 芸術・文化	pref.gunma.jp/kyoi/10/index.html
	(財)群馬県教育文化事業団	「ぐんま地域文化マップ」	manadi.pref.gunma.jp/jigyodan/
	各市町村のWebページ (例：前橋市)	目的別でさがす文化・教育・人権 前橋市の郷土芸能	city.maebashi.gunma.jp/index.html

子どもの発達段階と音楽科学習の例

発達段階	ねらい	教材 【郷土の音楽】	親しませたい特徴 (重点項目)	主な学習活動
小学校 低学年	・わらべうたを歌ったり歌いながら遊んだりする活動を通して、郷土の音楽の独特なリズムに親しむ。	・表現教材 【わらべうた】	・リズム ・音と音の間 (リズム)	・わらべうたを歌ったり、歌いながら遊んだりする。
小学校 中学年	・簡単なふしのわらべうたを演奏する活動を通して、旋律の流れに親しみ、旋律の特徴を感じ取る。 ・それぞれの地域に伝わる郷土の音楽を鑑賞したり体験したりする活動を通して、郷土の音楽があることを知り、旋律やリズムに親しむ。	・表現教材 【わらべうた】 【民謡】 【郷土芸能】 ・鑑賞教材 【民謡】 【郷土芸能】	・リズム ・音と音の間 ・日本の音階 ・旋律の流れ ・和楽器の音色 (旋律)	・わらべうたの簡単なふしでリコーダーの基本練習をする。 ・郷土の音楽のリズム打ちを体験する。(実際の楽器があるとよい) ・郷土の音楽の旋律の流れやリズム、演奏の様子などに気を付けながら鑑賞する。
小学校 高学年	・郷土の音楽を歌ったり旋律やリズムを参考にして創作したりする活動を通して、日本の音階に親しみ、音の重なりや響きを味わう。 ・日本の音楽や郷土の音楽を鑑賞する活動を通して、和楽器の音色や響きや音の重なりを味わう。 ・郷土の音楽と世界各国の民俗音楽とを鑑賞し聴き比べる活動を通して、いろいろな音楽に親しみ、それぞれの地域の楽器の音色や音の重なりや響きを感じ取る。	・表現教材 【わらべうた】 【民謡】 【郷土芸能】 ・鑑賞教材 【民謡】 【郷土芸能】	・リズム ・音と音の間 ・日本の音階 ・旋律の流れ ・楽器の音色や響き (音の重なりや和声の響き)	・わらべうたや民謡を自然で無理のない発声で歌う。 ・わらべうたの旋律や祭り囃子のリズムを参考にして、リズム伴奏や旋律の創作をしたり合奏したりする。 ・和楽器の音色や音の重なりなどに気を付けながら、郷土の音楽を鑑賞する。 ・ほかの地域に伝わる郷土の音楽や他国の民俗音楽と郷土の音楽を聴き比べる。
中学校	・多様な音楽を曲種に応じた発声で歌ったり、和楽器や諸民族楽器で演奏したりする活動を通して、楽器の音色や響きや音の重なりの違いを味わい、音や音楽への興味・関心を養う。 ・郷土の伝統音楽や多様な音楽を鑑賞し聴き比べる活動を通して、音楽に対する総合的な理解を深め、幅広く鑑賞する能力を高めるとともに背景にある文化や歴史などについて理解する。 ・伝統音楽や和楽器の活用を通して音楽文化を理解し尊重する。	・表現教材 【わらべうた】 【民謡】 【郷土芸能】 ・鑑賞教材 【民謡】 【郷土芸能】	・リズム ・音と音の間 ・日本の音階 ・旋律の流れ ・和楽器や諸民族楽器の音色や響き (活動の喜びや感動体験、意欲、態度)	・曲種に応じた発声で歌う。 ・郷土の伝統音楽や諸民族の音楽を和楽器や諸民族楽器を用いて演奏する。 ・郷土の音楽のふしを参考にして、創作活動をする。 ・数種類の郷土の音楽や他の国の曲を聴き比べる。 ・郷土の音楽を曲としてではなく、一つの芸能としてとらえ味わい、体験する。 選択音楽 郷土の伝統芸能など地域の特質を生かした学習をする。

音楽科授業に活用するための具体的な工夫の例

授業構成の工夫（効果的な発問や教材「郷土の音楽」の提示の仕方など）
 指導過程の工夫（授業の流れ・進め方など）
 支援の工夫（個に応じた指導・おおむね満足な状況になるための指導など）
 環境構成の工夫（教室環境や板書計画など）
 指導の工夫（体験的な活動・外部講師起用・ITで指導・ワークシートの活用など）
 教材教具の工夫（音源以外の教材・楽器・プロジェクタなど）
総合教育センターの「教材レンタルサービス」などを活用し、なるべく本物の楽器に触れる機会を設ける。（センターのWebページ参照<http://www.center.gsn.ed.jp>）



参考資料

平成14年度「日本の伝統音楽に親しむ学習指導に関する研究」山梨県総合教育センター 齊藤恵子
 平成17年度東京都重点事業「日本の伝統・文化理解教育推進事業」東京都教育庁



平成17年度 教育フェスタ発表用 配布資料
 平成18年2月

群馬県総合教育センター教科教育グループ
 長期研修員（音楽科班） 萩原 桂子

18.02.04

資料2 地域素材の収集に参考になる書籍・紀要・資料など(例)

	書名・資料名・題名など	編集/発行/著者	発行所	発行年	所有者(ほか)
日 本 書 籍 全 ・ 紀 要 ・ 資 料 群 馬 県	和文化 日本の伝統を体感するQA事典	和文化教育研究会 中村哲	明治図書出版	平成16年10月	群馬県立図書館
	民俗芸能で広がる子どもの世界	文化庁：芳賀日出 男・星野紘	(社)全日本郷土芸 能協会	平成15年3月	(書店販売)
	日本の伝統文化を生かした音楽の指導	峯岸創・大熊信彦 ほか	(株)暁教育図書	平成14年6月	総合教育センター 図書館
	音楽からみた日本人	小島美子	日本放送出版協会	平成9年7月	群馬県立図書館
	日本の音楽を考える	小島美子	音楽之友社	昭和51年7月	群馬県立図書館
	平成14・15・16年度 研究集録 和楽器活用の音楽教育 第1～3集	NPO邦楽教育振興 会	NPO邦楽教育振興 会	平成15・16・ 17年3月	総合教育センター 図書館
	「和文化の風」を学校に 心技体の場づくりに	和文化教育研究会 中村哲	明治図書出版	平成15年10月	(書店販売)
	日本の楽器 全6巻CD付 日本の音 1・2・3・4・5・6	高橋秀雄	小峰書店	平成12年2月	群馬県立図書館
	図説 日本の楽器	小島美子	東京書籍	平成4年10月	群馬県立図書館
	日本の民俗芸能調査報告書集成 関東地方の民俗芸能	各県の教育委員会	(有)海路書院	平成16年11月	群馬県立図書館
	特定非営利活動法人 邦楽教育振興会 会報 96 97他	NPO邦楽教育振興 会	NPO邦楽教育振興 会	平成17年 5・7月	総合教育センター 図書館
	岩波ジュニア新書429 はじめての和楽器	石川憲弘	岩波書店	平成15年3月	前橋市立図書館
	日本音楽の授業	山内雅子	音楽之友社	平成13年10月	総合教育センター 図書館
	日本音楽がわかる本	千葉優子	音楽之友社	平成17年3月	前橋市立図書館
	日本音楽のちから	現代邦楽研究所	音楽之友社	平成13年4月	群馬県立図書館
	授業のための日本の音楽・世界の音楽	島崎篤子・加藤富 美子	音楽之友社	平成11年11月	総合教育センター 図書館
	民俗音楽学の課題と方法 音楽研究の未来をさぐる	水野信男	世界思想社	平成14年2月	群馬県立図書館
	実践「和楽器」入門 伝統音楽の知識と箏・三味線・尺八の 演奏の基本	(財)音楽文化創 造 伝統音楽委員会	(株)トーオン	平成13年10月	群馬県立図書館
	読売新聞35面『新教科「伝統・文化」』 東京都関係の記事	読売新聞	読売新聞	平成17年 4月21日	各図書館で検索 可能
	群馬県の民俗芸能 - 群馬県民俗芸能緊急調査報告書 -	群馬県教育委員会	群馬県教育委員会	平成9年3月	総合教育センター 図書館
	群馬県の民俗芸能 - 群馬県民俗芸能実態調査報告書 -	群馬県教育委員会	群馬県教育委員会	昭和61年3月	前橋市立図書館
	群馬の祭り・行事 - 群馬県祭り・行事調査報告書 -	群馬県教育委員会	群馬県教育委員会	平成13年3月	総合教育センター 図書館
	群馬県の民謡 - 民謡緊急調査報告書 -	群馬県教育委員会 文化財保護課	群馬県教育委員会	平成元年3月	総合教育センター 図書館
	民謡調査 群馬県民謡 第3集	群馬県教育委員会	群馬県教育委員会	昭和44年	群馬県立図書館
	高等学校芸術科 指導資料(音楽関連 科目)「郷土芸能」指導の手引き	群馬県教育委員会	群馬県教育委員会	平成9年5月	総合教育センター 図書館
	群馬の八木節 - 伝承文化調査報告書 -	(財)群馬県文化 事業団	(財)群馬県文化 事業団	昭和57年3月	前橋市立図書館 2階郷土資料
	新世紀ぐんま郷土史辞典	(財)群馬地域 文化振興会	群馬県地域事業振 興会	平成15年1月	総合教育センター 図書館
	群馬の獅子舞	群馬県獅子舞保存 会	群馬県獅子舞保存 会	昭和58年	前橋市立図書館 2階郷土資料
	群馬県文化財地図	群馬県教育委員会	群馬県教育委員 会	平成3年3月	総合教育センター 図書館
	第16回 国民文化祭ぐんま2001 生命の発見	文化庁・群馬県 開催地市町村他	第16回国民文化祭 群馬県実行委員会	平成13年11月	総合教育センター 図書館
	生命の発見 第16回 国民文化祭ぐんま2001 公式記録(CD-ROM付)	文化庁・群馬県 ほか	第16回国民文化祭 群馬県実行委員会	平成14年3月	総合教育センター 図書館
	群馬の郷土芸能(上下)	萩原 進	みやま文庫	平成5年3月	群馬県立図書館
郷土芸能と行事 群馬県	萩原 進	前橋煥乎堂	昭和32年	前橋市立図書館	
群馬の祭りと年中行事	都丸十九一	上毛新聞社	平成7年6月	前橋市立図書館	
群馬の伝承わらべうた	酒井正保	群馬県文化事業振 興会	平成12年5月	前橋市立図書館 2階郷土資料	
群馬のわらべ歌	酒井正保	柳原書店	昭和62年10月	総合教育センター 図書館	

書 籍 ・ 紀 要 ・ 資 料	群 馬 県	民俗音楽の底力 - 群馬県、モデルを中心に -	日本民俗音楽学会	勉誠出版	平成13年10月	群馬県立図書館
		現代群馬の郷土教材探求 社会科学習 ・総合的学習の基礎として	山口幸男	あさを社	平成13年3月	群馬県立図書館
		月刊 上州路 郷土文化誌 147特集 上州民謡・八木節 231特集 群馬の和太鼓 271特集 群馬の祭り パート1 272特集 群馬の祭り パート2	(編集人) 関口ふさの 金谷 豊 関口ふさの 関口ふさの	あさを社	昭和61年7月 平成5年7月 平成8年12月 平成9年1月	群馬県立図書館
		群馬県内各地で実施された郷土の音楽 関係の記事		新聞や雑誌		各図書館で検索 可能
		比刀祢双書 1 前橋の郷土芸能 前橋の文化財	前橋市郷土芸能連 絡協議会 前橋市教育委員会	前橋市文化協会 前橋市教育委員会	昭和58年3月 昭和63年12月	群馬県立図書館 前橋市立図書館 2階郷土資料
	前 橋 市	前橋事典	前橋事典編集委員 会	図書刊行会	昭和59年2月	群馬県立図書館
		上泉獅子舞 「解説 上泉の祇園囃子」の部分コピ	前橋市教育委員会 前橋市教育委員会 文化財保護課	前橋市教育委員会 前橋市教育委員会 文化財保護課	昭和53年4月	群馬県立図書館 前橋市教育委員会 文化財保護課
		「前橋市上泉獅子舞(前橋市指定重要 有形民俗文化財)」の部分コピー	前橋市教育委員会 文化財保護課	前橋市教育委員会 文化財保護課		前橋市教育委員会 文化財保護課
		郷土芸能発表会時のプログラム 第5回前橋市地域芸術発表会 舞台発表「上泉の祇園囃子」	前橋市教育委員会 前橋市文化協会	前橋市教育委員会	昭和58年2月	群馬県立図書館
		上泉の獅子舞関係 ボジフィルム4点	前橋市教育委員会	前橋市教育委員会		前橋市教育委員会 文化財保護課
	テープ名・資料名・題名など	編集/発行/著者	発行所	発行年	所有者(ほか)	
音 源 資 料	群 馬 県	VTR 群馬県の民謡 上州の仕事唄(上下)	群馬県教育委員会 編集作成	群馬県教育委員会	平成10年	総合教育センター 音楽科
		VTR 群馬の民謡 (仕事唄の世界)	群馬県教育委員会 編集作成 代表 井田安雄	群馬県教育委員会		総合教育センター 音楽科
		CD 群馬の祇園囃子	群馬県教育委員会 文化財保護課	群馬県教育委員会	平成7年	総合教育センター 音楽科
	前 橋 市	カセットテープ 群馬の民謡集 第1集	群馬県民謡連盟 解説: 都木喜祿	群馬県民謡連盟	平成9年5月	総合教育センター 音楽科
		VTR 第29回前橋市郷土芸能大会収録	前橋市教育委員会 文化財保護課	前橋市教育委員会 文化財保護課		前橋市教育委員会 文化財保護課
VTR 第30回前橋市郷土芸能大会収録	前橋市教育委員会 文化財保護課	前橋市教育委員会 文化財保護課		前橋市教育委員会 文化財保護課		
カセットテープ 前橋市桂萱小学校付近の郷土の音楽	酒井正保	酒井正保		酒井正保		

資料3 郷土の音楽を検索できるWebページの例

	Webページのタイトル	掲載されていたページ(次)	Webページのアドレス(http://www.)
日 本 全 国	平成12年度文部科学省 教育用コンテンツ開発事業	「オンライン音楽室」日本の音楽 郷土の音楽	ongakushitsu.net/
	和 문화の風	和 문화 We b りんく	http://hsdb.soc.hyogo-u.ac.jp/wabunka/
	教育芸術社	「音楽調べ隊: 郷土の音楽」	kyogei.co.jp/index.html
	わざをき通信	群馬県獅子舞一覧表	asahi-net.or.jp/~TQ7K-WTNB/index.html
	東京都教育委員会		kyoiku.metro.tokyo.jp/
群 馬 県	群馬県教育委員会文化課	群馬の文化財 芸術・文化	pref.gunma.jp/kyoi/10/index.html
	(財)群馬県教育文化事業団	「ぐんま地域文化マップ」	manadi.pref.gunma.jp/jigyodan/
前 橋 市	前橋市	目的別でさがす文化・教育・人権 前橋市の郷土芸能	city.maebashi.gunma.jp/index.html
	前橋市観光協会 (好きですまえばし)	vol.9伝統行事を訪ねて	http://www2.wind.ne.jp/sukidesu/index.htm

資料4 平成17年度参加した研修会や講座

日時	場所	主催者	講師	テーマ・講座名など
6/9 6/29 10/5 11/18	総合教育センターほか	総合教育センター 教科教育G	井田安雄 ほか 星野弥一 ほか 大熊信彦 ほか 都木喜祿 ほか	郷土の音楽を学ぼう 郷土で生きる音楽の授業 日本や郷土の音楽の授業 群馬の民謡をうたおう
8/6	総合教育センター	総合教育センター 教科教育G	日本太鼓連盟 群馬県支部	和太鼓実技研修会
8/26	総合教育センター	総合教育センター 教科教育G	酒井正保 ほか	音楽科公開講座 群馬の民謡を子どもたちに（演奏鑑賞と講演）
5/29 5/29 6/26	生涯学習センター	(財)群馬県教育 文化事業団	星野 紘 井田安雄	総会「ぐんま伝統芸能サポーターの会」 講座「たのし、なつかし伝統芸能」 第1回「伝統芸能の源流を求めて」 第2回「群馬の伝統芸能」 以下、定期的に伝統芸能の鑑賞会も含めて続く
8/23 8/24	東京芸術大学 国立劇場大劇場	文部科学省	東京芸術大学音楽 学部邦楽科教授 宮下 伸 ほか 小島美子 ほか	平成17年度伝統音楽研修会（実技研修） 平成17年度伝統音楽研修会（講演・鑑賞）
7/25 7/26	日本青年館ホール	社団法人全日本郷 土芸能協会	小島美子 峯岸 創 大熊信彦 星野 紘 ほか	第2回伝統文化研修セミナー 講演「子どもたちの心身を開く民俗芸能」 パネルディスカッション 「民俗芸能で広がる子どもの世界」
4/23 6/25 6/6	群馬県立女子 大学	群馬県立女子大学	鳥越文蔵 松岡心平 酒井正保	県民公開授業「日本のことばと文化」 テーマ「日本の芸能」 テーマ「日本芸能の変革者としての世阿弥」 県民公開授業「わたしの群馬」 テーマ「群馬の伝承わらべうたに見る上州人の心の原風景」
10/13 10/14	愛知県岡崎市	全日本音楽教育研 究会	富田 勲・大熊信彦 高須 一 ほか	主題「いま音楽に夢中 ひろがる学びのステージ」 題材名「日本のふしに合わせておはやしをつくらう」
10/21	山梨県甲府市	関東音楽教育研 究会	大熊信彦 ほか	主題「音楽大好き！」 題材名「地域の伝統音楽に親しもう」
10/22	イイノホール	日本文化芸術財団	小島美子 ほか	第8回音楽のきずな「竹は折り、語り歌う」
11/22	東京都 稲城市	稲城市立城山小学 校	金本正武・松本 康 二見美佐子 ほか	研究主題「地域に伝わる伝統音楽・伝統芸能を取り入れた 小学校での授業の創造」 共催：(財)音楽鑑賞教育振興会

資料5 「教材化プロセス」についてのアンケート調査用紙

平成17年10月5日

試作リーフレットについてのアンケート
(「地域素材を教材化し音楽科授業で活用するプロセス」)

1 教科書の教材ではなく、学区や身近な郷土の音楽を活用した音楽の授業を实践されたことはありますか。
あてはまるものに () をつけて、その理由も書いてください。

ある(年間指導計画に位置付けて毎年実践している・今年度はじめて実践した・その他)
()
ない
()

2 試作リーフレットに基づき、郷土の音楽を取り入れた音楽科授業を具体化することについて、以下の質問に
をつけてください。
(1 とてもあてはまる、2 ややあてはまる、3 ややあてはまらない、4 まったくあてはまらない)

音楽科授業を具体化する興味・関心をもった	1	2	3	4
音楽科授業を具体化する可能性がある	1	2	3	4
「プロセス」がわかりやすい	1	2	3	4

3 試作リーフレットや「プロセス」の基本構想図などについて、ご意見ご感想をご自由にお書きください。

4 その他、郷土の音楽に関する情報をおもちの方がいらっしゃいましたら、お書きください。

校名() 氏名()
お忙しいところ、ご協力いただき大変ありがとうございました。

資料6 音楽科学習指導案（置籍校）

音楽科学習指導案

前橋市立桂萱小学校 4年

平成17年10～11月実施

指導者 教諭 萩原 桂子

題材名 「郷土の音楽に親しもう」

表現教材（歌唱）：わらべうた（まりつき歌・手遊び歌・絵描き歌・その他遊び歌など）

表現教材（体験）：上泉の祇園囃子

鑑賞教材 : 上泉の獅子舞、上泉の祇園囃子

群馬県の民謡より（八木節・田植え唄・麦打ち唄・守っ子唄など）

題材の考察

1 児童の実態（各クラス、男子10人、女子12人、計22人）

子どもたちは、低学年でわらべうたを歌ったり、3年生でわらべうたをリコーダーで練習したりしている。郷土の音楽と意識をして学習するのは今回が初めてである。

授業実践をする前（平成17年7月19日実施）の「郷土の音楽に親しもう」の題材に対するアンケート調査の結果、休み時間などにわらべうたを歌いながら遊んでいる子どもはほとんどいない。歌いながら遊んだことのある歌として、「あんたがたどこさ・絵かきうた・ずいずいずっころばし・なべなべそこぬけ」などを数名の子どもがあげただけである。また、多くの（84%）子どもたちが中心街で行われている前橋まつりには行っている。そして、半数（50%）の子どもたちは、三年に一度行われる諏訪神社のお祭りにも行ったことがある。前橋まつりの祇園山車・お囃子や、上泉の諏訪神社の獅子舞や祇園囃子を漠然とではあるが目にはしているはずである。しかし、お祭りに行っても、雰囲気を楽しむながら出店で買い物をしたり食べたりすることに夢中で、獅子舞やお囃子などの郷土の音楽を意識してはいなかったようである。子どもたちの中には、子供育成会でお囃子に参加し締太鼓や鉦の演奏経験者や、古くから桂萱地区の獅子舞にかかわってきた祖父の関係からささらの経験者もいる。

4年生のこの時期に、総合的な学習の時間において「地域のことを調べよう」の単元を学習する。地域の学習と平行して、郷土の音楽に親しむ学習をすることは大変意義のあることと考える。

2 題材の価値観

郷土の音楽とは、わらべうた・民謡・郷土芸能など、我が国で長い間多くの人々に親しまれ大事に伝えられてきた様々な音楽、庶民の生活の中から生まれ、民衆の手によって伝承されている音楽である。郷土とは、生まれ育った土地やふるさとのこと、子どもたちにとっては、現在住んでいる地域、発達段階により居住する市町村及び都道府県程度の範囲までのことである。日本の音楽文化の中で、特に郷土の音楽は、自然や風土・言語・慣習・仕事などの庶民の実生活の中で生まれ、その地域に住む人々の体に溶け込んで暮らしや心をはぐくみ、精神そのものになっている。また、祭りや年中行事の折などにその地域の人々によって慣習として繰り返し行われ、代々伝承されてきた貴重な無形文化財である。しかし、現在の子どもたちは郷土の音楽を身近に感じられなくなってきている。原因として社会の急速な変化に伴い郷土の音楽にふれる機会が減少してきたこと、具体的には人々の生活が変わったために唄われる機会が減少した、地域の限られた人々のみで行われていることが多いため広く知られにくい、保護者を含む人々の祭りや年中行事に対する意識やかかわり方が多様になってきているなどが考えられる。

「小学校学習指導要領解説 音楽編」では、鑑賞教材として郷土の音楽を取り上げること、歌唱教材としてそれぞれの地方に伝承されているわらべうたや民謡などを取り上げることが示されている。実際にわらべうたを歌ったり、楽器に触れたり、まねして演奏してみたりという郷土の音楽の学習活動を通して、郷土の音楽に親しもうとする態度を育てていきたい。これは、知識として郷土の音楽を学ぶだけでなく、鑑賞活動を中心に、体験したり表現したりする活動を通して培われていくものであると考える。そして、日本の音楽やそれぞれの地域の生活を基盤にした郷土の音楽を学校教育に取り入れ学習す

ることで、学校と地域社会における生活との関連を図ることができるとともに、日本や自分たちの地域の音楽文化についての関心や理解なども一層深まり広がっていくと考える。子どもたちの心の奥底に秘められている郷土の音楽に対する感性を刺激し、郷土の音楽を愛好する心情を育てるとともに、心の中に郷土の原風景の素地をつくることにつなげていきたいと考える。

本題材「郷土の音楽に親しもう」の後、「日本の音楽に親しもう」、高学年において、「日本の音楽を味わおう」「アジアの音楽に親しもう」「世界の音楽に親しもう」へと発展する系統立てられた学習が予定されている。

3 教材の価値観

わらべうたは、子どもの遊びの中から生まれ歌われ、そして遊びの中で伝承されてきた郷土の音楽である。歌い継がれる中で様々に変化した経緯があるが、その大部分は音階やリズムなどの基本的な要素の点で、伝統が守られた形で現代に残されている。わらべうたは民謡の音階的特徴の最も基本的なものを単純な形で示していると考えられる。子どもたちは楽しく遊べるわらべうたをあまり知らない。わらべうたを使った遊びは場所を取らず、郷土の音楽に親しむ学習の導入として適した教材である。

上泉の獅子舞（前橋市指定重要有形民俗文化財）は、諏訪神社に伝わる獅子舞で、始まりは承和年間（834～848）といわれ、たび重なる戦乱で記録や諸道具は焼失してしまったが、舞は古式どおり伝えられ、地域の人々に親しまれてきた郷土芸能である。県下に現存する獅子舞は300をこえるといわれるが、その流派のいずれにも属しないとされる上泉獅子舞は、前橋市の郷土芸能の中でも特に価値のあるものの一つである。獅子役者は、腰に中くらいの大きさの太鼓をつけ、バチは右手を主につかい、左手は補助程度に使うのが特徴である。笛は三人が二人ずつ交代で吹く。二人の子どもが花笠をかぶり竹の「ササラ」を持ってすりあわせ音を奏でる。この音は疫神などがいやがるといわれている。地域の行事として行われている獅子舞を鑑賞教材として取り上げることは、郷土の音楽に親しませやすく、大変意義のあることと考える。

上泉町に伝承されている祇園囃子は、明治はじめ頃、町の有志により伊勢崎市波志江町より伝承されたといわれている。終戦後、上泉諏訪神社の祭りに4組の山車を出したことで復活した。その後、昭和23年の桃木川の大洪水により一時中断したが、昭和56年7月に末永く継承・保存することを目的に再度復活した。同年12月には保存会も結成し、後継者の育成として上泉子供育成会も参加した。現在、主流の「さんてこ囃子」を継承するとともに「よかぐら」「きりん」「吉原かんら」「しちょうめ」「かごまる」など小物と呼ばれる多くの曲も演奏している。使用楽器は、大太鼓・小太鼓・鉦・笛。平成17年10月15・16日に、上泉の諏訪神社で三年に一度のお祭りが行われ、獅子舞と祇園囃子が奉納された。身近なところに伝わる音楽として興味・関心をもたせるとともに、郷土芸能としての雰囲気味わわせ、旋律の流れや特徴などを感じ取らせるのにこれらは適した教材である。また、「さんてこ囃子」の部分のリズムを取りだし、間の取り方やリズム打ちを体験することで郷土の音楽に親しませ、既習の曲とは違うことに気付かせ旋律の流れや特徴を感じ取らせるのに適している。

前橋市には作業唄などいくつかすぐれたものが残っている。田植え唄、棒打ち唄（麦打ち唄）、たこつき唄、糸引き唄などである。『群馬の民謡（仕事唄の世界）』に納められている数曲の前橋の民謡は、これらの仕事をしながら歌われてきた唄である。また、実際の仕事を演じながら歌っているVTRのため、様子がとてもよく分かる。一般民謡がほとんどが労働に伴って発生したように、時代の変化とともに仕事のやり方が変わり、ほとんど唄われなくなっている。歌っているお年寄りの中にはすでに亡くなってしまった人がいるそうで、貴重なVTRである。歌い継がれることがなくなってしまった今、郷土の音楽を知り後世に伝えていくためにも、このVTRを鑑賞することは意義があることと考える。

八木節は群馬県・栃木県の民謡として全国でも有名である。群馬県では桐生の演奏が特に有名であるが、前橋でも前橋まつりや納涼祭などで演奏され踊られている。桂萱小校区では納涼祭に小学生が八木節のお囃子を演奏したり踊ったりしている地区がある。地域により歌詞やリズムに多少の違いがあるため、前橋で演奏された八木節を鑑賞し、身近で郷土の音楽が演奏されていることを意識させるのに適している。

以上のような理由から、本題材を設定した。

目標

身近に伝わる郷土の音楽を教材として活用し、郷土の音楽の旋律の流れや特徴(音色・リズム・旋律)を感じ取り、進んで聴いたり体験したりして親しみ、興味・関心をもてるようにする。

題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

評価の観点	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
歌唱				
器楽				
鑑賞				
題材の評価規準	郷土の音楽に関心をもって、聴いたり表現したりしようとしている。	郷土の音楽の旋律の流れや特徴を感じ取って、表現を工夫している。	郷土の音楽の特徴を生かした演奏をしている。	郷土の音楽の旋律の流れや特徴を味わって聴く。
学習における具体的な評価規準	郷土の音楽に関心をもち、わらべうたの遊びに取り組もうとしている。 旋律の特徴や使われている楽器の響きなどに関心をもって聴こうとしている。	わらべうたの旋律の流れや特徴を感じ取っている。 祇園囃子の特徴を感じ取って演奏の仕方を工夫している。	祇園囃子の打楽器の音色やリズムの特徴を生かした演奏をしている。	祇園囃子や獅子舞の旋律の流れや特徴を感じて聴いている。 郷土の音楽の旋律の流れや特徴の味わいや表現の豊かさを感じて聴いている。

指導と評価の計画(全4時間)

ア～エ及び～は題材の評価規準との関連を示す

過程	時間	学習のねらい ・学習内容及び学習活動	支援及び指導上の留意点	評価の観点、具体的評価規準 【 】は具体的に判断する場合と方法 十分満足できると判断する状況
郷土の音楽に出会う	1	地域に伝わるわらべうたを表現する活動を通して、旋律の流れや特徴に親しむとともに、自分たちの身近に伝わる郷土の音楽に気付き学習課題をもつ。 ・わらべうたを歌いながら遊ぶ。 ・自分たちの身近にどんな郷土の音楽があるか考える。	○郷土の音楽に親しみやすい雰囲気づくりをするために、題材の導入に際し、低学年時の復習を兼ねて、いろいろなわらべうたで楽しく遊べるようにする。 ○自分たちの身近な郷土の音楽を書き込めるワークシート(自己評価カードを兼ねる)を準備する。	ア ：郷土の音楽に関心をもち、わらべうた遊びに取り組もうとしている。 【表情や態度の観察】【ワークシートの記述】 わらべうた遊びに進んで取り組んでいる。 イ ：わらべうたの旋律の流れや特徴を感じ取っている。 【活動の様子の観察】【ワークシートの記述】 わらべうたの旋律の流れや特徴に気付き、拍の流れにのって楽しく遊んでいる。
郷土の音楽にふれる・体験する	2	地域に伝わる郷土芸能を鑑賞する活動を通して、郷土の音楽が今も伝承されていることを知り、旋律やリズムに親しむ。 ・上泉の獅子舞と上泉の祇園囃子を映像(VTR)や音のみ(カセットテープ)で鑑賞する。 ・使用されているいろいろな楽器や郷土の音楽の特徴を話し合う。	○お祭りに行ったことがない子どもにも様子・楽器・衣装などお祭りの状況を知らせるために、音だけでなくお祭りの様子を撮影したVTRを鑑賞する。 ○郷土の音楽の特徴を話し合う際、意見を出しやすくするために、楽器名や楽器の特徴などを記入できるワークシートを準備する。	ア ：旋律の特徴や使われている楽器の響きなどに関心をもって聴こうとしている。 【表情や態度の観察】【発言】【ワークシートの記述】 使用されている楽器に興味・関心をもち、旋律の特徴や音色に気を付けて聴こうとする。 エ ：祇園囃子や獅子舞の旋律の流れや特徴を感じて聴いている。 【表情や態度の観察】【ワークシートの記述】 それぞれの楽器の役割を感じ取り、音の特徴や音色の違いを聴き取っている。
	3	祇園囃子を体験する活動を通して、郷土の音楽にはたくさんの楽器が使用されていることを知り、旋律やリズムに親しむ。 ・郷土の音楽に使用されているいろいろな楽器を体験する。	○地元のお祭りに行ったことがなく、祇園囃子を知らなかった子どももいるため、本物の楽器を準備し、体験できるようにすることで親しみやすくする。 ○太鼓でリズム打ちする前に口唱歌を復唱し、リズムの	イ ：祇園囃子の特徴を感じ取って演奏の仕方を工夫している。 【演奏の様子】【表情や態度の観察】 速さや音のバランスを工夫し、祇園囃子の雰囲気を感じ取って演奏している。 ウ ：祇園囃子の打楽器の音色やリズムの特徴を生かした演奏をしている。

		<ul style="list-style-type: none"> ・表現と鑑賞の関連を図るために、本物の楽器を使用したり、上泉の祇園囃子の一部分のリズム打ちを演奏体験したりする。 	特徴をつかみやすくする。 ○間（ま）を全員で体感できるようにするために、練習用のタイヤとばちをクラスの人数分用意する。	【演奏の様子】【表情や態度の観察】【ワークシートの記述】 呼吸を合わせほかの児童の演奏を聴きながら、締太鼓のリズムの特徴を感じ取って演奏している。
郷土の音楽を味わう	4	前橋市や群馬県に伝わる民謡を鑑賞する活動を通して、たくさんの郷土の音楽があることを知り、旋律やリズムの特徴を感じ取る。 ・前橋市や群馬県に伝わる民謡を映像（VTR）や音声（カセットテープ）で鑑賞する。	○一曲一曲VTRの鑑賞前や途中で、背景や意味や状況などの解説を加え、郷土の音楽の旋律の流れやリズム、演奏の様子などに気を付けながら鑑賞できるようにする。	ア：旋律の特徴や使われている楽器の響きなどに関心をもって聴こうとしている。 【表情や態度の観察】【ワークシートの記述】 旋律の特徴や楽器の響きなどに関心をもち、郷土に伝わるその他のたくさんの民謡にも興味・関心をもち聴こうとしている。 エ：郷土の音楽の旋律の流れや特徴の味わいや表現の豊かさを感じて聴いている。 【表情や態度の観察】【発言】【ワークシートの記述】 いろいろな仕事唄のリズムや旋律の特徴を意識して感じ取り、味わって聴いている。

指導方針及び留意点

郷土の音楽に出会う過程においては、郷土の音楽の導入にあたるため、授業のねらいにせまり達成していくために、教材「わらべうた」の提示の仕方やどの教材をどう組み合わせるかを授業を進めていくのかなど授業構成を考慮する。

郷土の音楽にふれる過程においては、身近にあって地域で親しまれている音楽を意図的に教材として取り上げる。具体的には、祭りの現地取材などで収集した祇園囃子や獅子舞をVTRでそのまま与えたり、演奏している音楽全体の中から主になる旋律の一部分を抜き出したりなど、教材化したものを活用して鑑賞活動をする。

祇園囃子や獅子舞の使用されてる楽器や特徴を考える際には、いろいろな場面の拡大した写真や特徴を書き出したヒントカードを用意し、板書の工夫をする。

郷土の音楽を体験する過程においては、できるだけたくさんの楽器やばちを用意して体験する回数を増やすとともに、総合教育センターの「教材レンタルサービス」などから祭りで使用されている楽器と同じような本物の楽器を借り、体験する機会を設け親しませる。

郷土の音楽を味わう過程においては、教育委員会で編集された実際の作業を演じながら歌っているVTRを使用して鑑賞活動をする。また、専門家が前橋市内で録音したカセットテープを使用する。教科書指導用のCDには全国的に有名な曲が数曲録音されているが、実際の祭りの時の録音ではないものが多く、地域によって歌詞や演奏されている速さが違っているため、できるだけその地域に馴染みのある演奏を取り上げる。

VTRを鑑賞する際にはプロジェクタなどを活用し、大きな画面で見られるようにする。

すべての過程において、適切な評価をするために、子どもたちが自分の学習を振り返ることのできる学習カードを作成し、評価資料として有効に活用する。観察から見取る方がいいのか、ワークシートから見取る方がいいのか、子どものどういう姿をどういう方法で見取るのかを具体化し適切な評価を行う。

郷土の音楽にふれたことがある児童、初めてふれる児童と、郷土の音楽に対する意識に個人差があると思われるため、個に応じた指導を心掛けて支援をする。

本時の学習

1 本時の目標

地域に伝わるわらべうたを表現する活動を通して、旋律の流れや特徴に親しむとともに、自分たちの身近に伝わる郷土の音楽に気付き学習課題をもつ。

2 準備

教師：わらべうたの拡大歌詞カード、ワークシート

児童：筆記用具

3 展開(本時は4時間扱いの1時間目)

過程	学習活動	時間	支援及び指導上の留意点	評価の観点及び評価方法 【 】具体的に判断する場面と方法 十分満足できると判断する状況 努力を要する児童への働きかけ
つかむ	題材や本時の学習内容についての説明を聞く。	5	○題材の全体の流れを説明することで、学習の見通しがもてるようにする。	ア ：郷土の音楽に関心をもち、わらべうた遊びに取り組もうとしている。【表情や態度の観察】 【ワークシートの記述】 自然に身体を動かすなどわらべうた遊びに進んで楽しく親しんで取り組んでいる。 楽しく取り組めるように勝ち負けのない、全員が参加できるようなわらべうた遊びを行う。 イ ：わらべうたの旋律の流れや特徴を感じ取っている。【発言】 【活動の様子の観察】 【ワークシートの記述】 わらべうたの旋律の流れや特徴に気付き、拍の流れによって楽しく遊んでいる。 全員で手拍子をしながら歌うなど、拍・リズム・音と音の間を感じられるようにする。 【ワークシートへの記述】から、どんなことに気付いたか、学習課題をもてたかを分析する。 十分満足できると判断する状況
	わらべうたを歌ったり歌いながら遊んだりする。 ・なべなべそこぬけ ・ずいずいっころばし ・あんたがたどこさ	20	○題材の導入に際し郷土の音楽に親しみやすい雰囲気づくりをするために、わらべうたを例示する。 ○いろいろなわらべうたで楽しく遊べるように教材を考慮する。 ○わらべうたの旋律の流れやリズムや特徴を全身で感じられるように、わらべうた遊びの例示の時に手拍子をする。	
追求する	自分たちの身近にはほかにはどんな郷土の音楽があるか考えるとともに「旋律の流れや特徴を感じ取り郷土の音楽に親しむ」という学習課題をもつ。 わらべうた なわとび歌 まりつき歌・年中行事歌 手遊び歌・絵描き歌など 郷土芸能 上泉の獅子舞 上泉の祇園囃子 民謡 八木節・仕事唄など	15	○本題材の学習の目当てを提示し、地域に伝わるわらべうたを教材として活用し歌いながら遊ぶ活動をするにより、学習課題をもてるようにする。 ○自分の身近なところにたくさんの郷土の音楽が伝わっていることに気付くように、いろいろな場面や場所などを提示する。	例 たくさん郷土の音楽があることに気付くとともに、旋律の流れや特徴も感じ取っており、学習課題を明確に把握し、内容のあるたくさんの記述ができています。
まとめる	学習課題やわらべうたのほかに身近にどんな郷土の音楽が伝わっているのか、また、本時の活動の自己評価などをワークシートへ記入する。 次時では、獅子舞や祇園囃子を鑑賞することを知る。	5	○学習課題や身近な郷土の音楽についてワークシートに書き込めるようにすることで、郷土の音楽を意識できるようにする。 ○子どもの取組の様子など、本時の学習で頑張ったことを賞賛するとともに、次時は、身近な郷土芸能である獅子舞や祇園囃子を鑑賞することを知らせ、意欲付けを図る。	

わらべうた遊びをしている様子



取り上げたわらべうた

- ・どちらにしようかな
- ・子どもと子どもがけんかして
- ・げんこつやまのたぬきさん
- ・お寺のおしょうさんが
- ・おせんべやけたかな
- ・なべなべそこぬけ
- ・ずいずいっころばし
- ・あんたがたどこさ

本時の学習(2時間目)

1 目標

地域に伝わる郷土芸能を鑑賞する活動を通して、郷土の音楽が今も伝承されていることを知り、旋律やリズムに親しむ。

2 準備

教師：プロジェクタ、スクリーン、VTR、拡大した獅子舞の写真、櫓太鼓、締太鼓、鉦、篠笛、ワークシートなど

児童：筆記用具

3 展開(本時は4時間扱いの2時間目)

過程	学習活動	時間	支援及び指導上の留意点	評価の観点及び評価方法 【 】具体的に判断する場面と方法 十分満足できると判断する状況 努力を要する児童への働きかけ
つかむ	本時の学習内容についての説明を聞く。	5	○前時のわらべうたの学習を振り返り、身近に伝わるほかの郷土の音楽についてふれ、本時の学習に生かせるようにする。	ア ：旋律の特徴や使われている楽器の響きなどに関心をもって聴こうとしている。【発言】 【表情や態度の観察】【ワークシートの記述】
追求する	上泉の獅子舞と上泉の祇園囃子を映像(VTR)や音のみ(カセットテープ)で鑑賞する。	10	○お祭りに行ったことがない子どもにも様子・楽器・衣装などお祭りの状況を知らせるために、音だけでなくお祭りの様子を撮影したVTRを使用する。	使用されている楽器に興味・関心をもち、旋律の特徴や音色に気を付けて聴こうとする。 なかなか関心をもてない場合には、使用されている楽器に気付くよう、楽器や音色に焦点を当てた映像や音声を提示する。
	使用されているいろいろな楽器や郷土の音楽の特徴を話し合う。 ・リズム ・音と音の間 ・日本の音階 ・旋律の流れ ・和楽器の音色(旋律)	25	○郷土の音楽の特徴を話し合う際、意見を出しやすくするために、楽器や楽器の特徴などを記入できるワークシートを準備する。 ・郷土の音楽の旋律の流れやリズム、演奏の様子などに気を付けながら鑑賞するよう助言する。	エ ：祇園囃子や獅子舞の旋律の流れや特徴を感じて聴いている。【表情や態度の観察】【ワークシートの記述】 それぞれの楽器の役割を感じ取り、音の特徴や音色の違いを聴き取っている。 実際に本物の楽器を演奏し比べて、違いに気付くようにする。
まとめる	祇園囃子や獅子舞についてや、本時の活動の自己評価などをワークシートへ記入する。 次時では、祇園囃子を体験することを知らせる。	5	○祇園囃子や獅子舞についてワークシートに書き込めるようにすることで、郷土の音楽を意識できるようにする。 ○子どもの取組の様子など、本時の学習で頑張ったことを賞賛するとともに、次時は、祇園囃子を体験することを知らせ、意欲付けを図る。	【ワークシートへの記述】から、どんなことに気付いたか、感想をもてたかを分析する。 十分満足できると判断する状況 例 内容のあるたくさんの記述ができています。

板書の様子



本時の学習(3時間目)

1 目標

祇園囃子を体験する活動を通して、郷土の音楽にはたくさんの楽器が使用されていることを知り、旋律やリズムに親しむ

2 準備

教師：檜太鼓、締太鼓、鉦、篠笛、古タイヤ、和太鼓のばち、ワークシートなど

児童：筆記用具

3 展開(本時は4時間扱いの3時間目)

過程	学習活動	時間	支援及び指導上の留意点	評価の観点及び評価方法 【 】具体的に判断する場面と方法 十分満足できると判断する状況 努力を要する児童への働きかけ
つかむ	本時の学習内容についての説明を聞く。	5	○前時の獅子舞と祇園囃子を鑑賞の学習を振り返り、郷土の音楽の特徴や楽器についてふれ、本時の学習に生かせるようにする。	イ ：祇園囃子の特徴を感じ取って演奏の仕方を工夫している。 【演奏の様子】【表情や態度の観察】ほかの児童の演奏を聴きながら、速さや音のバランスを工夫し、祇園囃子の雰囲気を感じ取って意欲的にリズム打ちしている。強弱・速さなど工夫するポイントを例示する。
追求する	郷土の音楽に使用されているいろいろな楽器を体験する。 表現と鑑賞の関連を図るために、本物の楽器を使用したり、上泉の祇園囃子の一部分「さんてこ」のリズム打ちを演奏体験したりする。 ・旋律の流れ ・リズム ・特徴	35	○地元のお祭りに行ったことがなく、祇園囃子を知らない子どももいるため、本物の楽器を準備し、体験できるようにすることで親しみやすくする。 ○間(ま)を全員で体感できるようにするために、練習用のタイヤとばちをクラスの数分用意する。(締太鼓や鉦などの実際の楽器があるとよい) ○体験する活動を通して旋律の流れ・リズム・特徴に親しませ興味・関心をもたせる。	ウ ：祇園囃子の打楽器の音色やリズムの特徴を生かした演奏をしている。 【演奏の様子】【表情や態度の観察】【ワークシートの記述】大太鼓や鉦などと呼吸を合わせ、締太鼓のリズムの特徴を感じ取って演奏している。口唱歌を提示し、太鼓でリズム打ちする前に口唱歌を復唱し、リズム打ちしやすくする。 【ワークシートへの記述】から、興味・関心や意欲をもって聴いたり体験したりしていたかを分析する。 十分満足できると判断する状況 例 内容のあるたくさんの記述ができています。
まとめる	祇園囃子を体験したことについてや、本時の活動の自己評価などをワークシートへ記入する。 次時では、前橋市や群馬県の郷土の音楽を鑑賞することを知る。	5	○祇園囃子を体験したことについてワークシートに書き込むことで、郷土の音楽を意識できるようにする。 ○子どもの取組の様子など、本時の学習で頑張ったことを賞賛するとともに、次時は、前橋市や群馬県の郷土の音楽を鑑賞することを知らせ、意欲付けを図る。	

活動の様子



本時の学習(4時間目)

1 目標

前橋市や群馬県に伝わる民謡を鑑賞する活動を通して、たくさんの郷土の音楽があることを知り、旋律やリズムの特徴を感じ取る。

2 準備

教師：プロジェクタ、スクリーン、VTR、カセットテープ、ワークシートなど

児童：教科書、筆記用具

3 展開(本時は4時間扱いの4時間目)

過程	学習活動	時間	支援及び指導上の留意点	評価の観点及び評価方法 【 】具体的に判断する場面と方法 十分満足できると判断する状況 努力を要する児童への働きかけ
つかむ	本時の学習内容についての説明を聞く。	5	○前時に獅子舞と祇園囃子を鑑賞したことを振り返り、郷土の音楽の特徴や楽器についてふれ、本時の学習に生かせるようにする。	ア ：旋律の特徴や使われている楽器の響きなどに関心をもって聴こうとしている。【表情や態度の観察】【ワークシートの記述】
追求する	桂萱小地区や前橋市や群馬県に伝わる民謡を映像(VTR)や音声(カセットテープ)で鑑賞する。 「群馬の仕事唄」より ・田植え歌 ・麦打ち唄 ・守りっこ唄など 前橋に伝わる音楽より ・八木節など	30	○曲ごとにVTRやカセットテープの鑑賞前や途中で、背景や意味や状況などの解説を加え、郷土の音楽の旋律の流れやリズム、演奏の様子などに気を付けながら鑑賞できるようにする。	旋律の特徴や楽器の響きなどに関心を持ち、郷土に伝わるそのほかのたくさんの民謡にも興味・関心を持ち聴こうとしている。 仕事内容と歌に着目して、聴くように助言する。 エ ：郷土の音楽の旋律の流れや特徴の味わいや表現の豊かさを感じて聴いている。【発言】【表情や態度の観察】【ワークシートの記述】
まとめる	本題材を通して鑑賞したいろいろな郷土の音楽についてや、本時の活動の自己評価などをワークシートへ記入する。	10	○鑑賞したいろいろな郷土の音楽についてワークシートに書き込めるようにすることで、郷土の音楽を意識できるようにする。 ○子どもの取組の様子など、本時の学習で頑張ったことを賞賛するとともに、今後も郷土の音楽に親しみたいという意欲付けを図る。	いろいろな仕事唄のリズムや旋律の特徴を意識して感じ取り、味わって聴いている。 歌詞や旋律の特徴などポイントとなる部分を示して聴くようにする。 【ワークシートやアンケートの記述】から、興味・関心や意欲をもって活動していたかを分析する。 十分満足できると判断する状況例 内容のあるたくさんの記述ができて

資料7 導入（1時間で実施）の展開（協力校）

協力校では、置籍校で行った1・2・3時間目までの内容を抜粋し、「日本の音楽に親しもう」と「アジアの音楽に親しもう」の導入として1時間実施した。

展開例

過程	学習活動	時間	支援及び指導上の留意点	評価の観点及び評価方法 【 】具体的に判断する場面と方法 十分満足できると判断する状況 努力を要する児童への働きかけ
つかむ	<p>題材や本時の学習内容についての説明を聞く。 わらべうたを歌ったり歌いながら遊んだりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> なべなべそこぬけ ずいずいずっころばし あんたがたどこさ 	10	<ul style="list-style-type: none"> 題材の全体の流れを説明することで、学習の見通しがもてるようにする。 題材の導入に際し郷土の音楽に親しみやすい雰囲気づくりをするために、わらべうたを例示する。わらべうたの旋律の流れやリズムや特徴を身体全体で感じられるように、わらべうた遊びの例示の時に手拍子をする。 	<p>関心：郷土の音楽に関心をもち、わらべうた遊びに取り組みようとしている。 【表情や態度の観察】【ワークシートの記述】 自然に身体を動かすなどわらべうた遊びに進んで楽しく親しんで取り組んでいる。 楽しく取り組めるように勝ち負けのない、全員が参加できるようなわらべうた遊びを行う。</p>
追求する	<p>上泉の獅子舞と上泉の祇園囃子を映像（VTR）や音のみ（カセットテープ）で鑑賞する。 使用されているいろいろな楽器や郷土の音楽の特徴を考え発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> リズム・旋律の流れ・音と音の間（ま）・日本の音階・和楽器の音色 	15	<ul style="list-style-type: none"> お祭りに行ったことがない子どもにも様子・楽器・衣装などお祭りの状況を知らせるために、音だけでなくお祭りの様子を撮影したVTRを使用する。 郷土の音楽の特徴を考える際、意見を出しやすくするために、楽器や楽器の特徴などのヒントカードを準備する。 	<p>鑑賞：祇園囃子や獅子舞の旋律の流れや特徴を感じて聴いている。 【表情や態度の観察】【ワークシートの記述】【発言】 それぞれの楽器の役割を感じ取り、音の特徴や音色の違いを聴き取っている。 実際に本物の楽器を演奏し比べて、違いに気付くようにする。</p> <p>感受：祇園囃子の特徴を感じ取って演奏の仕方を工夫している。</p>
	<p>郷土の音楽に使用されているいろいろな楽器を体験する。 表現と鑑賞の関連を図るために、本物の楽器を使用したり、上泉の祇園囃子の一部分「さんてこ」のリズム打ちを演奏体験したりする。</p>	15	<ul style="list-style-type: none"> 地元のお祭りに行ったことがなく、祇園囃子を知らない子どももいるため、本物の楽器を準備し、体験できるようにすることで親しみやすくする。 太鼓でリズム打ちする前に口唱歌を復唱し、リズムの特徴をつかみやすくする。 間（ま）を全員で体感できるようにするために、練習用のタイヤとばちをクラスの人数分用意する。 	<p>【演奏の様子】【表情や態度の観察】 ほかの児童の演奏を聴きながら、速さや音のバランスを工夫し、祇園囃子の雰囲気を感じ取って意欲的にリズム打ちしている。 口唱歌を提示し、太鼓でリズム打ちする前に復唱し、リズム打ちしやすくしたり、強弱・速さなど工夫するポイントを例示したりする。 【ワークシートへの記述】から、興味・関心や意欲をもって聴いたり体験したりしていたかなど郷土の音楽に対する意識の変化を分析する。</p>
まとめる	<p>本時の活動の自己評価などをワークシートへ記入する。</p> <p>次時では、日本の音楽（アジアの音楽）の学習をすることを知らせる。</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動の自己評価などをワークシートへ記入することで、郷土の音楽を意識できるようにする。 子どもの取組の様子など、本時の学習で頑張ったことを賞賛するとともに、次時は日本の音楽（アジアの音楽）の学習をすることを知らせ、意欲付けを図る。 	<p>十分満足できると判断する状況例 たくさん郷土の音楽があることに気付き、旋律の流れや特徴を感じ取って聴いたり体験したりして、学習課題を明確に把握し内容のあるたくさんの記述ができています。</p>

資料8 中学校における指導と評価の例

小学校で郷土の音楽を学習した子どもが、中学校1年時に「日本の音楽に親しもう」で郷土の音楽を学習することを想定し、その部分の指導と評価の計画を作成した。郷土の音楽の地域として、小学校では学校区や市町村、中学1年では群馬県内、中学2・3年では全国各地へと、系統立てた学習を想定している。

指導と評価の計画（全2時間）

過程	時間	学習のねらい ・学習内容及び学習活動	支援及び指導上の留意点	評価の観点、具体的評価規準 【 】は具体的に判断する場面と方法 十分満足できると判断する状況
郷土の音楽に親しむ	1	<p>地域に伝わる郷土の音楽を鑑賞する活動を通して、旋律の流れや特徴に親しむとともに、群馬県にも多くの郷土の音楽があることを知り、学習課題をもつ。</p> <p>郷土の音楽を体験する活動を通して、郷土の音楽に使用されている楽器や旋律やリズムに親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わらべうた遊びをする。 ・小学校で学習した郷土の音楽を鑑賞する。 ・体験する予定の群馬県に伝わる郷土の音楽を鑑賞する。 ・使用されているいろいろな楽器や特徴を話し合う。 ・使用されているいろいろな楽器を体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○題材の導入に際し、わらべうたを取り上げて、郷土の音楽に親しみやすい雰囲気になるようにする。 ○小学校と連携を図り、小学校で学習した郷土の音楽をVTRやCDなどで鑑賞できるようにする。 ○郷土の音楽の特徴を話し合う際、意見を出しやすくするために、楽器や楽器の特徴などを記入できるワークシート（自己評価カードを兼ねる）を準備する。 ○表現と鑑賞の関連を図るために、本物の楽器を使用したり、ゲストティーチャーを招いたりして演奏体験できるようにする。 	<p>関心：郷土の音楽の旋律の特徴や使われている楽器の響きなどに関心をもって聴こうとしている。</p> <p>【表情や態度の観察】【発言】【ワークシートの記述】 使用されている楽器に興味・関心を持ち、多くの楽器について、それぞれの旋律の特徴や音色に気を付けて聴こうとする。</p> <p>鑑賞と表現：郷土の音楽の旋律の流れや特徴を感じて聴いたり、特徴を生かした表現したりしている。</p> <p>【演奏の様子】【表情や態度の観察】【ワークシートの記述】 音の特徴や音色の違いを聴き取り、速さや音のバランスを工夫し、それぞれの楽器の役割を感じ取って演奏している。</p>
郷土の音楽を味わう	2	<p>群馬県や日本全国に伝わる郷土の音楽を鑑賞する活動を通して、それぞれの地域にたくさんの郷土の音楽があることを知り、旋律やリズムの特徴を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・群馬県内に伝わる郷土の音楽を映像（VTR）や音声（CDやカセットテープ）で鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一曲ごとに鑑賞前や途中で、背景や意味や状況などの解説を加え、郷土の音楽の旋律の流れやリズム、演奏の様子などに気を付けながら鑑賞できるようにする。 ○一曲ごとに感想を記入できるワークシートを準備する。 ○選曲にあたっては、歌（唄）や楽器、旋律やリズムなどに特徴のあるものを取り上げるようにする。 	<p>関心：旋律の特徴や使われている楽器の響きなどに関心をもって聴こうとしている。</p> <p>【表情や態度の観察】【ワークシートの記述】 旋律の特徴や楽器の響きなどに関心を持ち、全国各地に伝わるたくさんの郷土の音楽にも興味・関心を持ち聴こうとしている。</p> <p>鑑賞：郷土の音楽の旋律の流れや特徴の味わいや表現の豊かさを感じて聴いている。</p> <p>【表情や態度の観察】【発言】【ワークシートの記述】 群馬県のいろいろな郷土の音楽のリズムや旋律の特徴を意識して感じ取り、違いや表現の豊かさを味わって聴いている。</p>